

もち²×スマ もちもちの木smile

TOPICS

- ✓ 第21期通常総会実施
- ✓ もちもちスタッフ それぞれの働き方
グループホーム古田のおうち
計画作成担当者 木田 裕子さん



巻頭言

「自分らしさ」を保つために

長期化するコロナ禍で、社会的弱者の困窮が顕在化し「孤立死」や「孤育て」などの社会問題が急拡大しました。

介護分野では高齢者のデイサービス利用控えによるコロナフレイル(認知機能、身体機能の低下)が問題になり、閉じられた空間で介護をするケアラーも孤立化し、これまでになく閉塞感を感じる状況になっています。

個々の孤立化が加速している昨今、「家族」のあり方が変わり、その機能を「他人」で補う必要が出てきています。

もちもちの木が「庚午のおうち」で取り組んでいる事業では、高齢者や子育て世代、勤労世代が無理のない範囲でつながり、それぞれの困りごとに対して必要な家族機能を近隣の住民たちで補い合い、地域全体で取り組むモデルができつつあります。まだ手探りの段階ですが、このような取り組みが拡がることが前述の問題解決のために必要だと考えています。

困りごとは、一つだけを解決すれば良いようなものではなく、例えば「介護」で悩んでいても、介護をするために「仕事」ができないこと、仕事ができないために「生活困窮」となり「住まい」への不安が重なるなど、多くの課題が絡まっています。課題は多様化しているため、複合的なケアが必要です。

相談できる人が周りにいない、どこに相談したら良いかわからない、そのような方々のために、今年度新たに、法人のネットワークをフル活用し、多世代を対象にワンストップで困りごとの相談対応ができる事業「住まいと暮らしの保健室」をスタートいたします。

一人でも多くの方が自分らしくいられるように、当法人は持てる力を最大限に発揮し支援してまいります。

みなさまには変わらぬご支援・ご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。



理事長 竹中庸子

もちもちの木では、人としてのあり方、個人の尊厳を尊重し、利用者様一人ひとりの24時間、365日の生活・暮らしをトータルに捉え、専門的な介護ケア、介護保険では補えない細やかな生活支援サービス、介護以外の生活相談など多角的な支援を行っています。

「自分の家で長く暮らしたい」

そのため私たちが全力でサポートいたします。

お困りごと、心配ごとはお気軽にご相談いただき積極的にご利用ください。



あそび工房ゆめみ 代表 南夢未さんをお招きし、記念講演『楽育子育て～コロナ禍でも子育て楽しもう♪～』を開催。多くの親子に楽しんでいただきました♪

開催時の様子

令和4年度 第21期通常総会を開催しました

去る令和4年6月25日、昨年度に引き続き新型コロナ感染拡大防止策の一環として本会、交流会ともにオンラインにて第21期総会を実施いたしました。全議案とも厳粛に審議され、満場一致で可決、承認されました。引き続きご支援賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。

子育て世代支援サロン「ママの会」が10周年

古田のおうちで始まった、子育て世代支援のサロン「ママの会」が今年で10周年！去る令和4年3月11日に、

若年性認知症当事者と家族への支援を考えるボランティア団体の事務所を設置

古田のおうちに「若年性認知症の本人・家族の地域生活支援を考える会」の事務局を設置いたしました。若年性認知症についての勉強会や当事者や家族同士の相談の場などを設けています。お気軽にご連絡ください。

担当：木田 080-1632-0207



もちもちの木 働き方改革



もちもちの木には多様な働き方があります。希望に応じた雇用形態のほか、育児や介護、地域活動や芸術活動との両立など。今回は、グループホーム古田のおうちのスタッフをご紹介します。

古田のおうちデイサービスの介護職として2019年に入職し、翌年、地域包括ケアリーダーおよびグループホームの管理者に、現在は計画作成担当者として勤務する木田裕子さん。



木田裕子さん

地区社協や町内会の役員など積極的な地域活動を行う傍ら、10年前、当時は受け皿の無かった若年性認知症の患者さんの支援を目的にスタートした「若年性認知症の本人・家族の地域生活支援を考える会」をボランティアで運営するなど精力的な活動を行なっています。

介護業界に関わるきっかけは、調理師の資格を活かして施設で調理の仕事を始めたことでしたが、介護の仕事は自身には全く向いていないと考えていました。他の業種へ転職しようと赴いたハローワークで「持前のコミュニケーション能力が活かせるから」との勧めで介護の資格取得し、その後就職した小さな事業所で、先輩方の丁寧な指導と利用者さんからの感謝の言葉にやりがいを感じ、以降15年間介護の仕事を続けることになったそうです。その間には、事業所が大手に吸収され大規模な介護施設となり、業界3年目には管理者、その後、施設の支配人として数十人を統括し24時間運営の事業所でケアマネージャーや介護技術指導、人材育成など複数の業務を兼務しつつ忙しく働いていました。

2018年頃に「パソコンでの作業中に指先の細かな動きが難しい」「手先が疼いている感覚がある」などの違和感があり神経科を受診。パーキンソン病と診断されました。

当時勤めていた会社はフルタイム勤務で転勤などの異動が多くいたため、このまま働き続けるのは無理があると考え退職。これまでにパーキンソン病を患っている方と接することも多かった木田さんは、病気の進行が早く車いすや寝たきりになっていった方を知って

いるだけに自分もすぐに動けなくなるのではないかと数日は落ち込んでいたといいます。

病名告知後すぐの友人たちの集まりで、今後の身の振り方について悩みを吐露したところ、友人からの「できないことを見つけてもしょうがない。まだ動けるじゃん。口は動くしできることはあるよ」との言葉に気持ちを切り替えることができたそうです。

退職から3ヶ月ほど経った頃、その友人である竹中理事長に打診され、もちもちの木へ入職し介護業界へ復帰しました。

復帰後はもちもちの木で介護技術を一から学び直したという木田さん。利用者さんとの心身の距離の取り方や具体的なコミュニケーションの方法などに気づかされる点が多々あったそうです。これまでに、介護の仕事が好きで一生懸命にやっても利用者さんと意思疎通がうまくいかず離職するスタッフを何度も見てきました。「もちもちの木の細かな介護技術を教えてくれる指導育成であったなら、もっと仕事がやり易く、そして楽しく面白くかったはず」と話します。今でも部下だった前職場のスタッフから相談を受けるという木田さん。「もちもちの木の介護指導のようなアドバイスにカウンセリングができれば、もっと役に立てられる」と、最近心理学を勉強し始めたそうです。

高齢者は今後も増加するにもかかわらず、介護保険でできることはどんどん絞られてきている、と話す木田さん。利用者さん一人一人の24時間を考え、どう過ごせばより良いのかを把握してケアプランを用意するためには、介護保険のサービスプランのみを切り貼りするのではなく、介護保険以外で必要になる支援に対し実費で対応できる制度を利用するなど、ニーズに応じた臨機応変な組み合わせが必要だといいます。

今後は、これまでの自身の活動と合わせて法人とその仕組みを作りたいという木田さん。認知症になる前、そして認知症になった人とその家族の方々と伴走できる支援をしていきたい、と今後のビジョンを語ります。

「もしかしたら動けなくなるかもしれない、その時はオンラインでも何でもいいので介護業界について相談などの対応ができるれば、役に立てるかなと思っています」と木田さん。「やりたいこと、やることがあります病気になんてなっていられない」と明るく笑って話してくれました。



もちもちの木で
一緒に働く仲間を
募集中！

やりがい！ 成長できる！ 働きやすい！

もっと知りたい！

詳細はこちら



ベテラン、新人関係なくスタッフ全員が情報共有しチームでケア個人の目標に応じたスキルアップ研修で成長できる！

家庭や育児、ライフワークとの両立等、働きやすい環境を提供



特定非営利活動法人

もちもちの木

～優しい心～ 迷ったり 探さぬよう そばにいるよ

【本 部】 土橋のおうち 中区土橋町5-35

TEL : 082 (294) 9346 FAX : 082 (294) 9328

MAIL : mochimochi.npo@gmail.com WEB : <https://mochi2.stars.ne.jp>

◎ 古田のおうち 西区古江新町8-32 TEL : 082 (272) 2701

◎ 庚午のおうち 西区庚午中一丁目9-11※お問い合わせは土橋のおうち

